

季節の室礼

季節を盛る 言葉を盛る 心を盛る

「室礼^{しつらい}」とは一年の節目に、また人生の節目節目に“季節を盛る”“言葉を盛る”“心を盛る”ことを言います。行事とは行うことであり、先人の霊を招き、客人を招き、感謝の心を供すること。その時々季節にあわせて野菜や果物、花などを盛って、もてなしを形にし、心を込めて表します。



受講の感想

今月の室礼は紅白の紙びなで男雛と女雛を表しています。紙は「神」にも通じ一番位の高い雛だそう。赤の奉書で奉る気持ちを表しています。赤の色は厄除け、ひし形は長寿の意味を持っています。他に蛤などさまざまな貝がしつらえてあり、川の流れの中に私たちの穢れを一身に受けて流してくれる。流しびなを流してあります。ここでも「行事」を勉強していく中でそこに潜んでいる精神を学んでいくと、とても身近に感じてきました。

もうひとつ私にとって興味深かったのは、内裏雛は右上位か左上位かということ。現在は向かって右に男雛で、左が女雛ですが、歴史をたどると、遙か中国の漢の時代は右上位で、唐の時代になると左上位になり、また戻る。皇帝によって変化してきたそうです。今回の紅白雛を飾るとき、男雛を少し上に飾るときはちり収まる気がして、自然にそうしていました。男女平等の手本のような家庭に育った私にとって、それはちょっと「ビックリ」な発見でした。(熊丸梨奈)

弥生（雛祭り）

三月三日は「上巳^{じょうし}の節供」「桃の節供」ともいわれ、子どもの健やかな成長と幸せを祈る祭りの日です。もともとの由来は

中国の上巳の日に川に入って

心身の穢れを祓う儀式が日本に伝わり、

日本古来の信仰に基づく祓えの行事とが結びつき、

さらに平安貴族の

手遊び人形「ひいな」の習俗とが次第に融合して

現在のように節供に雛人形を飾り、

雛遊びをする風習がうまれてきました。

写真のひな人形は不幸にして早くに亡くなった子供の魂に託した室礼です。菜の花は一本のロウソクとしてたむけてあります。

提供：室礼三千（しつらいさんぜん）

東京都杉並区浜田山3-16-5 Tel 03-3304-7020（火～土曜日午前10時～午後5時／日・月曜定休日）●体験教室もあります